

水 土 里 レ ポ ー ト

投稿月日	平成30年5月25日
タイトル	守谷市大野小学校 代かき見学・田んぼりレー
水土里レポーター名	茨城土連 総務経理課 主事 隠岐 龍也



平成30年5月24日、茨城県守谷市野木崎地先において、守谷市大野小学校の4年生による「田んぼりレー」が行われました。これは、大野小学校による「米作り体験学習」の一部である「田んぼの代かき体験」を兼ねて行われます。

本行事では、地元大野地区の活動組織であり、「多面的機能支払交付金事業」に取り組んでいる「大野地区田園環境保全活動組織(EPOP)」が協力し、種を植えるところから、代かき、稲刈り、おだかけまでの一連の作業を小学生に体験してもらっています。そして、小学生は米づくりについて体験学習したことを学校で報告し、最終的に自分たちで作ったお米を食べるのです。

今回はその一部である代かきの様子を報告します。



始まりの会 司会



校長先生 あいさつ

当日、始まりの会の司会は男の子が元気にやってくれました。開会の言葉、校長先生挨拶、高橋さん(EPOP)のお話、とつつがなく進行する中、子ども達の顔は、早く入りたいという表情であったり、不安そうな表情であったり、と様々でした。



トラクターを見てはしゃぐ子ども達



トラクターを用いた代かきの実演

まずは、米作りの大切な工程である代かきの実演をしてもらい、見学しました。高橋さんのお話の中で、「昔は土が硬くて苗を植えるのも大変で、杭を刺して穴を開けることで苗を植えた時代もあった。」とありましたが、それを聞いた後にトラクターがザーッとかきならしていくのを見ると、よりその凄さを実感しました。また、「田んぼの周りの自然観察もしてみて」、とお話があったからか、子ども達は田んぼの中でトラクターから逃げ回るカエルに注目していたり、周りの田んぼの生き物を探して捕まえようとしていたりしました。



次に、田んぼに慣れるということで、田んぼの中を歩きました。やはり、子ども達は入りたくてうずうずしていたようで、爆発したように遊び始めました。田んぼに初めて入ったという子に感想を聞いてみると、「最初は、うーん、ちょっと嫌だなー、と思っていたけど、でも、入ってみるとみんなと楽しく遊べて良かった。底にいくほど冷たくなって、チョコレートを踏んでいるみたいだった。」と話してくれました。



ようやくお待ちかねの田んぼりレーです。ルールは、手前のコーンの上に置かれた麦わら帽子を被って走り、反対側のコーンを回って戻ってきて、最初のコーンに帽子を戻したら次の人がスタートする、というものでした。泥まみれになりながらも必死に走り続ける姿を見て、みんなで声を出して応援していました。



そして田んぼリレーが大盛り上がりで終わり、自由時間になりました。また田んぼに入って遊ぶ子や友達と周りの生き物を探す子など、それぞれ残りの時間も教室では味わえない貴重な体験をしていました。



今回の田んぼリレーでは、普段の生活であまり触れることのない自然に直に触れることができ、子ども達はとても良い経験ができたのではないのでしょうか。田んぼに入り、その感触やにおい、そこで仕事をする人々の気持ちなどを肌で感じるということは中々体験できないことです。大野小学校の子ども達は、学校の授業でこのような経験をすることができて大変恵まれていると思います。そういった環境を作ってくれた学校の先生や農家、活動組織などに感謝の気持ちを忘れずにいてほしいと思います。

また、先生達だけでなく、PTAや保護者の方々も多く参加し、子どもと一緒に走ったり、シャワー設営をしたりなど様々な支援を行っており、地域の繋がりが強く見えました。

こういった活動を行っている地域がさらなる繋がりを得られるように、また、他地域の参考となるように、今後とも水土里レポーターとして広報していきたいと思います。

◎今後も5月28日に4・5年生の田植えがあり、9月27日(予定)には4年生の稲刈り、6年生のおだかけ、11月10日(予定)には全学年での収穫祭があります。